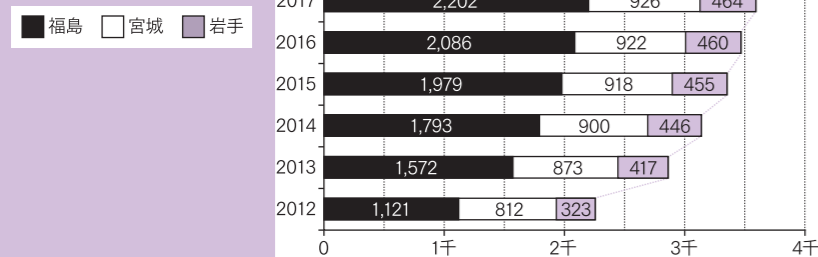


被災地の今

新聞やテレビで目にする被災地のようすは、切り取られた一部の時間。東日本大震災・福島第一原子力発電所の事故から今に至るまでの9年におよぶ時間のうち、私たちはほんの数時間分しか見聞きしていないのかもしれない。

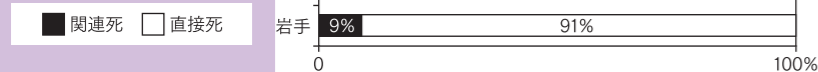
震災関連死の推移

(復興庁 2019年9月30日現在)
※数字は累計です。



死亡原因の割合

(各県 2019年12月31日現在)



震災関連死者数は、災害弔慰金の申請を遺族が行い、各市町村が設置する機関により、直接死以外で「この震災が原因で死亡した」と認定された方の数です。

北海道内の避難者登録数

避難元	人数
岩手	54
宮城	359
福島	899
その他※	172
合計	1,484

(北海道 2019年12月9日現在)

※「その他」は主に関東圏。

応急仮設住宅(プレハブ等建設分)の入居者数

	戸数	入居者数
岩手(6市町)	306	666
宮城(3市)	11	22
福島(6市)	76	121
合計	393	809

(各県 2019年12月31日現在)

応急仮設住宅(公営住宅・みなし仮設住宅)の入居者数

	戸数	入居者数
岩手	136	320
宮城	※2 36	※2 67
福島	1,719	3,008
合計	1,891	3,395

(各県 2019年12月31日現在)

※1 台風19号により応急仮設住宅に入居及び再入居した方の数は含まれません。

※2 宮城県の数値には、岩手県及び福島県の被災者が居住する数も含まれます。



ひとはもっとシンポする。
まちはもっとシンポする。

主催 3.11SAPPORO SYMPO 実行委員会

(北海道NPO被災者支援ネット、札幌駅前通まちづくり株式会社、一般社団法人北海道ブックシェアリング、北の里浜 花のかけはしネットワーク、株式会社ギガデザイン、NPO法人北海道NPOサポートセンター、月輪会、ほか個人有志)

協賛 札幌駅前通まちづくり株式会社、 NPO法人日本自治アカデミー、社協フェスタ&わいわいタウン帯広実行委員会

協力 吉川Family Presents「僕らの街から」、KAMI Productions、NPO法人札幌障害者活動支援センターライフ 共働事業所もじや、株式会社北海道共立、NPO法人コミュニティワーク研究実践センター

連携 HTB 北海道の子カラ「今、私たちにできること」 防災ひろば

お問い合わせ 3.11SAPPORO SYMPO 実行委員会 札幌市中央区南8条西2丁目 市民活動プラザ星園201 北海道NPO被災者支援ネット 内
TEL:080-3230-5900 E-mail:info@311sapporo-sympo.com

詳しくはホームページまたはフェイスブックからご覧いただけます <http://311sapporo-sympo.com/> サッポロシンポ



岩手県陸前高田市／現在、建設仮設住宅の居住者が3県で最も多い陸前高田市の海岸では、防潮堤建設が続いていた。



宮城県石巻市【震災遺構】旧石巻市立大川小学校／津波により児童108名のうち74名が犠牲となった。遺族が市と県に損害賠償を求め訴訟をおこし、2019年10月、仙台高裁は市と県の上告を退け遺族側の勝訴となった。



福島県富岡町夜ノ森／今年3月10日には、JR常磐線夜ノ森駅周辺の避難指示を解除し、2022年度には、避難指示区域の一部を「特定復興再生拠点」として解除する予定だ。

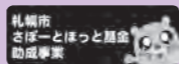
写真は2019年2月に撮影したものです。それから1年経った各地のようすは、「今を伝える写真展」として会場モニターにてご覧いただけます。

平成30年北海道胆振東地震による応急仮設住宅居住者数

	入居者数
札幌市	74戸209名
北広島市	18戸37名
厚真町	223戸363名
安平町	104戸173名
むかわ町	63戸98名

(北海道 2019年12月31日現在)

北海道胆振東部地震では、厚真町、安平町、むかわ町にプレハブなどの仮設住宅が新たに設置されましたが、札幌市や北広島市などでは、公営住宅や民間借上げ住宅(みなし仮設住宅)が供与されています。



後援 北海道、札幌市、社会福祉法人北海道社会福祉協議会、北海道新聞社

助成 札幌市さぼーとほっと基金

10年目の3.11

3.11x

SAPPORO SYMPO

2020年

3月10日(火) 11:00-19:00

3月11日(水) 11:00-19:00

ひとはもっとシンポする。

まちはもっとシンポする。

3.11SAPPORO SYMPO | 3.11SAPPORO Live | 3.11SAPPORO Cinema&Library | いのちをつなぐチャリティマルシェ ほか

チ・カ・ホ (札幌駅前通地下歩行空間) 北3条交差点広場(西)

東日本大震災・福島第一原子力発電所事故から9年が経ち、10年目を迎えます。

「3.11SAPORO SYMPO」は、

北海道に避難・移住した人、被災した地で生きる人、そしてその人々とともに歩む道民が

気づき、学んだことをこれからのまちづくりに活かすことを目的としています。

それが、失われたたくさんの命と、被害を受けた方々とともに生きることであり、

だれもが暮らしやすい社会を育てることにつながると信じるからです。

3.11SAPORO SYMPO

だれかの気づきや経験が、「ひと」をつなぎ、「まち」をつくる…サッポロ“シンポ”ジウム

SYMPO ① 「いのち」とつながる、いろんなこと

清水 寛子 (バクバクの会～人工呼吸器とともに生きる～ 北海道支部幹事) / 聞き手:窪田 健介 (社会福祉法人あむ)



呼吸器やたんの吸引など、医療的ケアが必要なお子さんをもつ清水さんは、北海道胆振東部地震による大規模停電を経験し、非常時に備え電源を確保すること、地域における医療的ケア児への理解が「いのち」とつながっていることを改めて感じました。「医療的ケアが必要だからこそ、近所の方々に知ってほしいことや、自分たちの声を届けなければ変わらないことがたくさんある」それは、東日本大震災後、障がい者支援のために被災地へ行った窪田さんが感じたことでもあります。この時間は、災害を通してみえてきた「ともに生きる社会」について考える時間です。

SYMPO ② 自分たちの暮らしをとり戻すために —「前向きに」と言えるまでの「過程」—

武内 明広 (北広島市大曲並木3丁目災害復興委員会 会長) / 武内 友香 (北広島市大曲並木3丁目災害復興委員会 事務局長) / 聞き手:定森 光 (NPO法人北海道NPOサポートセンター)

2018年9月6日に起きた北海道胆振東部地震。北広島市大曲並木地区は地盤陥没と崩落により大きな被害を受けました。地震により住民も知らない埋め殺しの擁壁が土中から出現。40年以上前の宅地造成のありかたに向き合わざるを得ない現実。周辺では何事もなかったかのような日常があるのに、復旧・復興に向けた動きも進まないまま時間だけが過ぎ、被害を受けた住民たちは不安と憤りを募らせていく中で「自分たちで声をあげ、伝えなければ前に進めない」と、震災から1年が過ぎた2019年10月に復興委員会を設立。行政に意見や要望を伝え、住民同志で支え合える活動を行っています。この時間は、この1年半の経緯と経験を共有します。



SYMPO ③ 被災地の前線での支援を続けて —現地へ行くこと、続けることの大切さ—

大土 雅宏 (NPO法人BOND&JUSTICE 代表理事) / 今野 徹 (いのちをつなぐチャリティマルシェ 代表)



自分が生まれ育った福島県南相馬市が、地震、津波、原発事故に遭い、仲間も失うなかで「自分にできることはなにか?」を考え、支援活動をはじめた大土雅宏さん。震災時は北海道庁農政部に在勤。道庁内に立ち上がった「被災県緊急支援対策本部」にて被災地からの広域避難の支援を担当した、今野徹さん。二人は支援活動の中で出会い、それぞれができることを、時に連携しながら、災害が起きた地域での現地支援を展開しています。この9年間、被災地とそこに暮らす人たちとかわり続けた二人とともに「大切なことはなにか」を考えます。

SYMPO ④ 自分の居場所がある、ということ —TOBIU CAMP のつくりかた—

木野 哲也 (文化芸術事業プロデューサー/飛生アートコミュニティーディレクター) / 聞き手:中脇 まりや (みちのくkids 初代代表)

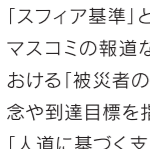
「飛生(トビウ)」は、胆振管内白老町にある、住所にのらない地区の名前です。木野さんは以前より仲間たちと森づくりを行っていたこの場所で、2011年から TOBIU CAMP という、アート作品の展示や音楽ライブなど様々なプログラムを展開するイベントの企画・運営を行なっています。2018年、イベント開催直前の台風直撃と北海道胆振東部地震によりイベント中止を余儀なくされたときには、準備で集まっていた関係者たちと「やむなくされた共生」を体験したと言います。



この時間は、「まち」や「地域」など地縁にとらわれない「場」を他者と協働して作り上げ、人々を招き入れていくプロセスと人の関わりについて、お話をうかがいます。

SYMPO ⑤ スフィア基準に学ぶ —災害時のあるべき人道対応—

荒井 宏明 (一般社団法人北海道ブックシェアリング 代表理事)



「スフィア基準」とは戦争や自然災害などで被災し、避難を与儀なくされた人々の支援活動を行う上で守るべき基準のことです。マスコミの報道などで「避難所のトイレの数や男女比」など、わかりやすい数値目標だけを示されることが多いのですが、本来はボランティア活動における「被災者の尊厳ある生活を営む権利の尊重」や「災害や紛争による苦痛を軽減するために実行可能なあらゆる手段が尽くされるべき」という理念や到達目標を指します。「人道に基づく支援」について、ぜひ一緒に考えてみましょう。

SYMPO ⑥ 原発事故損害賠償・北海道訴訟 —判決—

中手 聖一 (原告団団長) / 伊藤 考一 (弁護士/原発事故被災者支援北海道弁護団 事務局長) / 金榮 知子 (北海道NPO被災者支援ネット 代表)



2013年6月21日の提訴から7年を前にした2020年3月10日(火)午前10時、札幌地方裁判所で原発事故損害賠償・北海道訴訟の判決が言い渡されます。国の責任は認められるか、賠償はどこまで認められるのか。判決の結果を受けて、その内容をお伝えするとともに、これまでの法廷をふりかえり、国賠訴訟とはなにか、原発事故による被害とはなにかを考えていくトークセッションです。

3.11[≧]
SAPORO
SYMPO

ひとはもっとシンポする。
まちはもっとシンポする。

3.11SAPORO Live

※11日(水) 14時46分、会場にて黙祷を捧げます。

音楽で思いをつなげるミュージシャンによるライブ&トーク



ニライカナイバンド

妖怪という独自の視点で活動するシンガーソングライター“モノケユースケ”、フリースタイルトランペッター“yoshito”を中心に結成。今回はアイヌ文化伝承者“豊川容子”(Vo.)を迎えての特別なステージ。音楽を通じ被災地支援を続けて来たメンバー達の思いがシンクロし、未来へのサウンドが響き渡る。



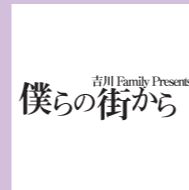
防潮亭梅太郎

震災後、大津波による破壊から自然に回復しつつあった被災海岸の海浜植物が、海岸林や防潮堤など防災インフラの建設工事により再び失われつつあった。「このままでは海辺の生態系が失われてしまう」同じ思いの仲間と立ち上げた団体「北の里浜 花のかけはしネットワーク」の代表として、岩手・宮城の海浜植物再生活動を行う傍ら、創作落語を通じて活動の意義を伝える。2017年より、林家とんでん平師匠率いる「落笑会」に入り、湿原亭元五郎の高座名をいただき、宮城、札幌などで口演。



宗前すみれ

2012年(16歳)よりピアノ弾き語りで活動を開始。札幌を中心にライブや音楽イベント、演劇に出演。楽曲提供など多方面で活動中。震災により石巻市雄勝町波板の海岸からハワイに流された船の物語に共感し、「波板の小舟の歌」という曲を制作。2019年11月23日、波板地域交流センターにて地域住民を招き“波板交流コンサート”を開催。



吉川Family Presents「僕らの街から」

STVアナウンサー吉川典雄、札幌出身のバンドTRIPLANE、北海道出身の河野玄太が、2011年に立ち上げたチャリティイベント。自分達ができることを続けていく…その思いを、オリジナルソング「輪になって」にこめてライブイベントを続け、「みちのくKids」「NPO法人福島の子どもたちを守る会」「たらちねクリニック」に支援金を届けている。

3.11SAPORO Cinema & Library

映像と本。それは、時間を辿り、起きたことを知り、伝えていくための大切な記録。

3.11SAPORO Cinema 上映会 渡辺 謙一 監督「フクシマ後の世界」

東日本大震災、福島第一原子力発電所事故に関するドキュメンタリー映像は、この9年間で数多く製作されています。そこに描かれているのは、撮影された時期、場所、そして人々の姿であり、その時にしかのこせない貴重な記録です。今回、会場では2012年に製作された映像を放映し、原発事故後に何が起きたのか、みなさんとともに振り返れます。



上映時間 3月10日(火) 15:45頃から

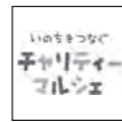
制作/カミプロダクション、アルテ・フランス(2012年-77分) 配給/アルテ・ディストリビューション 放送/2013年3月(フランス、ドイツ)

災害・防災関連図書の展示 北海道ブックシェアリング



東日本大震災に関する記録・記憶を中心に、災害や防災に関するさまざまな資料(書籍・雑誌・文献など)を展示し、閲覧できるブースを設けます。テーブルを用意していますので、個人で読みふけるもよし、仲間同士で資料片手にブックトークや学びなおし、情報交換をするもよし。もしみなさんのご自宅や職場に「読み終えた災害・防災関連資料」がありましたら、会場にお持ちいただき、ご提供いただければ幸いです。これらの資料はイベント終了後も、市内の施設などで展示を続けていきます。

いのちをつなぐチャリティマルシェ —道内チーズ工房のチーズと東北物産販売—



「生産者である農家の思いに、消費者の思いを重ね合わせ、北海道からたくさんの応援したい気持ちを被災地に届けたい」そんな思いから生まれたマルシェは、2011年3月に全国で最も早い復興支援チャリティイベントとして開催されました。単なる物販ではなく、「今、自分たちにできること」を考えながら、「いのちをつなぐ」農家+消費者の協力の仕組みを広げていく場。平成28年台風被害のときは、札幌から南富良野へのボランティアバスを2カ月にわたり運行、平成30年北海道胆振東部地震では、安平町の子どもたちへの支援や炊き出しを行い、被災農家や仮設住宅に暮らす方々への支援を続けています。

10日(火) 11日(水)

11:00	Live ニライカナイバンド	TOHOKU トークセッション
11:30		Live 宗前すみれ
12:00	SYMPO① 「いのち」とつながる、 いろんなこと 清水寛子 聞き手:窪田健介	
12:30		SYMPO④ 自分の居場所がある、 ということ 木野哲也 聞き手:中脇まりや
13:00		
13:30	SYMPO② 自分たちの暮らしを とり戻すために 武内明広 武内友香 聞き手:定森光	
14:00		Live 吉川Family Presents 「僕らの街から」
14:30		
15:00	Live 防潮亭梅太郎	
15:30		
16:00	3.11 SAPORO Cinema 「フクシマ後の世界」	SYMPO⑤ スフィア基準に学ぶ 荒井宏明
16:30		
17:00		3.11ブックトーク
17:30		
18:00	SYMPO③ 被災地の前線での 支援を続けて 大土雅宏 今野徹	SYMPO⑥ 原発事故損害賠償・ 北海道訴訟 中手聖一 伊藤考一 金榮知子
18:30		
19:00		

きぼうのワークショップ

参加無料 小学生以下保護者同伴

北海道が企業・団体との連携により木育の一環として取り組んでいる(東北にきぼうでメッセージを贈ろう!~「希望」を「きぼう」でプロジェクト)。会場では、被災地の子どもたちにむけて、バーニングペン(電熱ペン)で木の棒にメッセージを書き込むワークショップを開催。集められた「きぼう」は木枠とセットで「きぼうのプール」として被災地の子どもたちに寄贈されます。これまでに完成した「きぼうのプール」は14セット。被災3県や平成28年台風10号で被害を受けた南富良野町、平成30年北海道胆振東部地震で被害を受けたむかわ町と安平町へ届けられました。メッセージの書き込みは15分~20分程度。

